

■土石流発生場所（成川溪谷休養センター横）



■土石流により道路上へ押し出された倒木



6月は土砂災害防止月間

愛媛県の土砂災害危険箇所数は15,190箇所

愛媛県は急峻な地形と中央構造線など大規模構造の影響による脆弱な地質構造に加え、市街地・集落が山裾まで広がっているため、土砂災害危険箇所数は、県全体で15,190箇所、全国第14位となっております。さらに保全対象人家戸数5戸以上等の「ランクI」の箇所に限ってみると、6,796箇所と全国第8位と非常に多い状況となっております。

県民の約5人に1人が土砂災害危険区域内に居住

県内の土砂災害危険区域内には、推計ではありますが約32万人（県民の約5人に1人）が生活しています。

毎年のように発生する土砂災害

愛媛県での災害の発生状況については、平成16年度には、相次ぐ台風等の影響により、県下全体で332件の過去最多の災害が発生しており、台風等の自然災害による犠牲者（死者）26人のうち約7割の17人が土砂災害によるものとなっております。

また16年度に限らず毎年多くの土砂災害が発生しており、近年10年間で

年平均64件発生し、全国平均の2.8倍（全国発生件数1,057件/年、各都道府県平均22.5件/年）となっております。

日頃の備えと早めの避難

土砂災害による被害を軽減するために、県や市町では様々な土砂災害防止工事を行っています。しかし、これら全ての危険箇所に対策工事を施すには膨大な時間と費用がかかるため、整備が追いつかないのが現状です。

このため計画的に対策工事（ハード対策）を行うこととあわせ、警戒避難体制の整備などソフト対策を行うことが重要です。

土砂災害に関する防災情報を正しく理解し、避難場所をあらかじめ確認するなどの「日頃の備え」と、雨量情報や前兆現象などに注意し「早めの避難」を心がけることが大切です。



▶防災マップで避難経路、避難場所を事前に確認しておきましょう